



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.2

No.358

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O





異名の鳥 石光章 (所沢市)

閑古鳥(カンゴドリ)という鳥名、皆さんどこかで読んだり聞いたりしたことがおありでしょう。カッコウの異名です。「閑古鳥」は当て字で、カッコウドリが訛ったようです。「閑古鳥が鳴く」という譬(たと)えは客が来ない! ヒマだ! といった状態を表す時に使われます。芭蕉は「憂き我を寂しがらせよ閑古鳥」と詠んでいます。イメージはマイナーです。

私たち鳥好きは毎春カッコウの初認を待ち焦がれ、初音に心をときめかしますが、聞きによっては物寂しい声にも聞こえるところからこの異名が付いたようです。

早来鳥(ハヤコドリ)もカッコウの異名。これも鳴き声を「ハヤコー、ハヤコー」と、人を呼ぶ声と聞きとって付けられたようです。

鳥の異名、俗名、古名は、和歌や俳句あるいは民話や古典によく出てきます。目に付いたものを拾い出してみました。

◇ 妹背鳥(イモセドリ)…ホトトギスです。セキレイの異名との説もあります。

妹背は夫婦や恋人のことで、ホトトギスは相手を恋い慕って鳴くと言われたことが由来。ホトトギスは群を抜いて異名の多い鳥です。漢字表記だけでも杜鵑、時鳥、子規、不如帰、杜宇、郭公など多彩です。異名は卯月鳥、あやめ鳥、橘鳥、早苗鳥、勸農鳥、田長鳥(タオサドリ)、しでの田長、冥途の鳥、無常鳥、杳手鳥(クツテドリ)、童子鳥(ウナイコドリ)、黄昏鳥ほか多数。日本の鳥ではおそらく一番の異名持ちでしょう。

◇ 浮き寝鳥(ウキネドリ)…雁や鴨などの水鳥全般のこと。浮き鳥とも。

浮き寝が憂き寝に通じるところから、詩歌によく詠まれています。

「涙川 浮き寝の鳥となりぬれど

人にはえこそみなれざりけれ」(藤原清輔)

◇ 馬追い鳥(ウマオイドリ、マオドリ)…アオバトです。

昔、馬は生活に欠かせない動物でしたので

馬に関する民話が多数あり、その中にこの鳥が登場するものがあります。例えば、馬を逃がしてしまった下男が主人に手打ちにされ、魂が鳥になってマオマオと鳴きながら馬を探している…という青森県の民話など、馬追い鳥の話は東北地方を中心に広範に伝えられています。共通するのは「マオー、マオー」とか「アオー、アオー」という鳴き声。この声からフクロウとする説もありますが、主流はアオバトです。カラスバトも似た鳴き声ですが、少し低く「モオー」と聞こえるので地方によってウシバトと呼ばれているようです。

◇ 花魁鳥(オイランドリ)…エトピリカ。

花魁は江戸・吉原の遊女の中で最高位の女郎のこと。「エトピリカ」は美しい嘴という意味のアイヌ語ですが、派手な飾り羽と相まって海鳥にはあるまじき艶やかさから花魁に擬せられたのでしょうか? 名付けた人は花魁を知り尽くしたかなりの遊び人!?

◇ 櫛鳥(カシドリ)…カケス。

櫛の実つまりどんぐりを好んで食べることから、平安時代に既にこう呼ばれています。カケスはどんぐり類を樹の洞などに貯食しますが、隠した場所を忘れることが多いと言われ「カケスの物忘れ」という不名誉な譬えもあります。しかし、貯食場所をしっかりと記憶していたという実験結果もありますし、モズに劣らず物真似がうまいということからも、決しておバカな鳥ではなさそうです。でも残念ながら賢い鳥のカシドリではありません。

◇ 孝行鳥(コウコウドリ)…スズメです。

これも民話に登場する異名です。柳田国男の『野鳥雑記』によると、民話にスズメとツバメとキツツキが三兄弟として登場します。親の死に目に臨んで、キツツキは化粧が長くて最も遅くやって来ました。ツバメは黒緇子を纏ったりして手間取り少し遅くなりました。これに対しスズメはとるものもとりにあえず、頬の黒い汚れも拭かずに飛んで来たので褒められた…というような物語が基で、孝行鳥と

なつたようです。

◇ 恋教え鳥(コイオシエドリ)…粋な名の主はセキレイ。キカハクかセグロかは特定されておらず、タヒバリ属を除くセキレイ科です。

語源は『日本書紀』に遡ります。イザナギ、イザナミの男女二神が国生みに際し、セキレイが上下に尾を振るのを見てまぐわいの方法を学んだというくだりです。嫁ぎ教え鳥、石婚ぎ(イシクナギ)、石たたき等の名もあります。

由緒ある下ネタは江戸川柳の格好的では。

「鶴鴛は極秘を神に伝授なり」

イソシギも尾を振りますが、出番が無かったのはセキレイに比べると振り方がゆっくりで品良く見えるせいかな？

◇ 巫鳥(シトド)…ホオジロ科の鳥の古名。古くはシトド。

巫女(みこ)が、この鳥を占いに使ったことによるとされていますが、語源は不明です。古くはアオジがアオジトド、クロジはクロジトドでした。いまだにシトドの名を残しているのはサバンナシトド。中央アメリカの鳥ですが、迷鳥として2003年に東京・葛西に出現して話題になりました。

◇ 即鳥(シナイドリ)…ツグミ類の古名。

秋の戸隠探鳥会の人気者、マミチャジナイに僅かに古名が受け継がれています。

◇ 慈悲心鳥(ジヒシンチヨウ)…ジュウイチ。

由来は鳴き声の聞きなしからとされています。夏鳥として渡来するカッコウ科の鳥で「ジュイチー、ジュウイチー」と鳴くことから和名が付けられましたが、この声を「ジヒシン」と聞きなしてこの異名を考えた人は随分仏心にあふれた人だったのでしょう。味わい深い異名です。

「慈悲心鳥ひとつ啼くゆゑ起きいでて

あはれとぞおもふその啼く声を」(斎藤茂吉)

◇ 春告鳥(ハルツゲドリ)…ウグイス。

古くから親しまれている鳥だけあって、ウグイスも異名の多い鳥です。春鳥、花見鳥、歌詠鳥(ウタヨミドリ)、経読鳥、歌童(カドウ)、匂鳥等々。鳴き声を「ヒトク、ヒトク」と聞

きなした人来鳥もあります。

◇ 温め鳥(ヌクメドリ)…タカもしくは小鳥または親鳥を指す。

冬の夜、鷹が小鳥を捕らえてつかみ、自らの脚を温め翌朝これを放してやるということから鷹およびその小鳥を表す言葉。恩義を感じた鷹はその日は小鳥が逃げた方角では狩りをしない…とか。弱肉強食とは真逆の鳥の世界の「お・も・て・な・し」。心温る言葉です。親鳥が雛を温めることをいう場合もあります。

◇ 水恋鳥(ミズコイドリ)…アカショウビン。

カワセミは文字通り川を棲息域としますが、アカショウビンは森林の鳥です。その鳥が水恋(乞)鳥とか雨恋鳥と呼ばれるのは、これも民話等の伝承が基です。例えば、この鳥は親の死に水をとらなかつた罰で、水を飲もうとすると自らの赤い姿が映って火のように見え飲めないとか、前世に馬に水を飲ませるのをサボつたため馬が死に、罰として水恋鳥になった等の話が各地に伝えられています。鳴くと雨が降るとの言い伝えもあります。

「山里は谷のかけひの絶えだに

水恋鳥の声きこゆなり」(西行法師)

◇ 呼子鳥(ヨブコドリ)…正体不明！

鳴き声が人を呼んでいるように聞こえる鳥ということで、カッコウ説が強いようですがウグイス、ホトトギス、ツツドリ等昔から諸説入り乱れているようです。『徒然草』にも《「呼子鳥は春のものなり」とばかりいひて、いかなる鳥ともさだかに記せる物なし。》とあり、兼好法師も困っています。芭蕉の高弟、宝井其角にいたっては「むつかしや猿にしておけ呼子鳥」と独断的に詠み飛ばしています。鳥の種類に関係なく、語感優先でもてはやされた言葉なのでしょう。

鳥が古くから、上述のような様々な含蓄ある異名で呼ばれて来たのは、柳田国男が指摘しているとおり《鳥と我々の祖先とは、今よりもずっと親しい交際をしていた》(前掲書)からでしょう。異名の鳥もさぐってみると結構奥深いものがありました。

写真：カッコウ(編集部)

野鳥記録委員会の情報

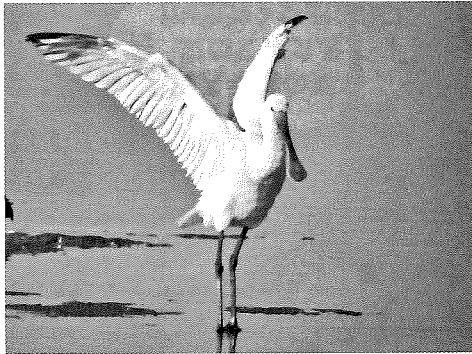
日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ヘラサギ

分類 ペリカン目トキ科ヘラサギ属

英名 Eurasian Spoonbill

学名 *Platalea leucorodia*



撮影：藤掛保司

2013年11月18日(月)から川越市内の伊佐沼で1羽観察されました。

本種はヨーロッパ南部からウスリー川流域で繁殖、冬は中国南部などに渡り、日本には亜種 *P. l. leucorodia* が数少ない冬鳥として飛来します。本県では、『埼玉県動物誌』(埼玉県教育委員会 1978年3月発行)に、「川口市と東京都の舎人町との境界付近に1970年10月に飛来した」とあるのが過去唯一の記録です。そのため、本誌前月号10ページでお知らせした経緯により、当会の県内野鳥チェックリスト2013年版には掲載されていません。次の版からは県内330種目として掲載されることとなります。

なお、この個体は初列風切の先が黒い、くちばし全体がピンク色またはピンク色味がかった黒色であるなどの特徴から、若鳥または幼鳥と思われます。

若鳥と幼鳥の区別については様々な意見があり、明確な定義はありませんが、くちばし全体がピンク色もしくは黒みがかったピンク色の場合は、幼鳥としている図鑑が多いことから、当委員会では本件個体を幼鳥と記録します。

野鳥の音楽(1) 小鳥のメロディーのこと てこり(さいたま市)

私は子どもの頃から大の音楽好きで、学生のころから趣味の楽曲作りをしている。最近では趣味のサイトに投稿などをして楽しんでいる。曲作りはたいていメロディーを作るところから始める。これがうまくできると曲作りはスムーズに進むのだが、なかなか気に入ったものがない。即興演奏のような小鳥のさえずりが、うらやましく思えたりもする。

小鳥のさえずりは耳に心地よいが、メロディーとしては聴こえない。1オクターブを12等分してできる音律を平均律というが、それに近似した音程で進行していないと、我々にはメロディーとして聴こえないのかもしれない。かろうじてメロディーになるのは、カッコウ、同音の反復だがツツドリなど、ホトトギスの仲間ぐらいだと思う。あれを小鳥のさえずりとは言わないかもしれないが。

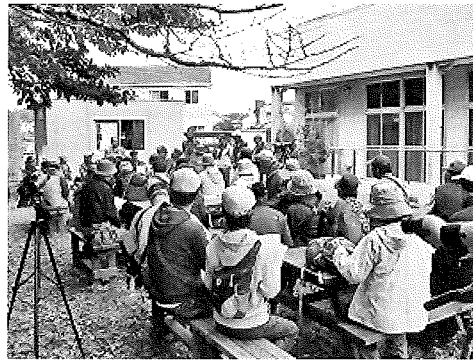
中国を旅行した時、面白い小鳥に出会った。遠くの電線にとまって鳴いている。ラ・ファ・シと聴こえた。もちろん人間の作った音律に則っているわけではないので、人が同じように歌ったら音痴の烙印を押されること間違いなしだが、なにか民芸品の、玩具の笛の音のような素朴で味わいのある音程感に、惹かれるものがあった。

少し近づいてみると3羽いる。観ていると、3羽で、それも各々が1音ずつ受け持って、順番に鳴いているようだ。合奏、いや番奏?とでもいうのか。いかにも楽しそうだ。最初に鳴きだす鳥は決まっているらしく、1羽が鳴くと間髪入れず別の1羽が鳴き、続いてもう1羽が鳴く。鳴く順序も変わらない。いつでもラ・ファ・シだ。

この小鳥たちが5羽、8羽、いやもっと大勢で鳴いていたらと想像すると、わくわくしてきた。しかし、その周辺を探しても別の群れは見つからず、旅行中にもう一度見ることもなかった。帰国して図鑑で調べてみた。ムクドリの間のような。日本には分布していない。彼らは、私の「また会いたい鳥リスト」の最上位にいる鳥たちの一つになっている。

バードウォッチング講座 20年を迎える
(会員活動報告) **田中幸男(蓮田市)**

蓮田市環境学習館(以下学習館)バードウォッチング講座(以下BW)が開講20年目を迎え、お世話になった蓮田中央公民館(以下公民館)元館長の飛田さん、石川さん、黒浜沼周辺の自然を大切にする会の福田会長、そして日本野鳥の会埼玉の藤掛代表、元支部長松井さん、そして吉安さんをお迎えし、11月2日(土)に記念講座が開催されました。写真はその時の開講式の様子です。



バードウォッチング講座(黒浜沼周辺)で観察された野鳥と出現率

当日は、曇りがちの天候でしたが、日本野鳥の会埼玉の方々も大勢ご参加いただき、市内外から57名でのBWとなりました。

開講式後いつもの通り黒浜沼周辺を探鳥し、オオタカはじめ33種の野鳥を確認しました。

このBWは1994年(H6/10/30)に公民館主催で開講し、2005年に学習館が開館したことから当年5月からは学習館主催となりました。

公民館講座のときは毎年11月～3月で5回の講座でしたが、学習館講座になってからは1年を通じ毎月(第1土曜日;年12回)の講座になっております。

メイン講師は開講時から現在まで前支部長の中島康夫さんが務めています。開講後しばらくは、日本野鳥の会埼玉県支部の多くの方々の応援もいただきました。現在は中島さんのほか会員の赤坂さん、玉井さん、そして田中が常勤で講師を務めております。

講座は毎月黒浜沼周辺で開催しておりますが、年に1回「移動観察会」として市外でも開催しております。これまでの開講回数は、黒浜沼周辺で122回、近郊で11回、市外で15回、計148回になっております。

受講者は公民館講座では事前応募で集まった方を対象としておりましたが、学習館講座になってからは当日の自由参加としております。結果当初は市民の方々中心の受講者でしたが、現在は市内外から月平均で約30名(内訳市内64%・市外36%)の方が集まる講座になっております。

122回のBWにおいて黒浜沼周辺で観察された野鳥は98種(右の表)となり、野鳥を通じて改めて黒浜沼周辺の自然の豊かさを示すこ

	%		%			%		%	
	春・夏 4～9月	秋・冬 10～3月	春・夏 4～9月	秋・冬 10～3月		春・夏 4～9月	秋・冬 10～3月		
1 カイツブリ	96	97	51	アカゲラ	2	12			
2 アカエリカイツブリ	0	1	52	コガラ	54	36			
3 カワウ	44	93	53	ヒバリ	12	19			
4 ヨシゴイ	0	1	54	ショウドウツバメ	13	0			
5 ヨイサギ	48	6	55	ツバメ	100	7			
6 アマサギ	15	0	56	コシアカツバメ	2	0			
7 タイサギ	54	43	57	イワツバメ	2	0			
8 チュウサギ	48	12	58	キセキレイ	0	3			
9 コサギ	19	46	59	ハクセキレイ	71	91			
10 アオサギ	54	61	60	セグロセキレイ	27	68			
11 ホンドリ	4	1	61	ビンズイ	0	3			
12 マガモ	6	41	62	ヒバリ	4	17			
13 カルガモ	90	90	63	ヒヨドリ	88	100			
14 コガモ	27	77	64	モズ	56	99			
15 オカヨシガモ	0	4	65	ルビタキ	0	4			
16 ヒドリガモ	0	3	66	ジョウビタキ	6	58			
17 オナガガモ	0	7	67	ビタキ	0	7			
18 ハシロガモ	2	9	68	アハラ	4	7			
19 ホシハジロ	0	1	69	シロハラ	0	9			
20 キンクロハジロ	0	3	70	ツグミ	29	75			
21 スズガモ	0	1	71	ウグイス	25	61			
22 ハチマコ	2	0	72	オオヨシキリ	62	0			
23 トビ	0	3	73	キクイタダキ	0	1			
24 オオカ	19	48	74	セッカ	69	1			
25 ツミ	0	1	75	エビタキ	0	1			
26 ハイタカ	2	9	76	エナガ	2	0			
27 ノスリ	0	9	77	ヒガラ	0	7			
28 サンバ	12	4	78	ヤマガラ	0	1			
29 ハヤブサ	0	3	79	シジュウカラ	85	81			
30 チョウゲンボウ	15	25	80	メジロ	44	59			
31 コジュケイ	27	30	81	ホシジロ	46	72			
32 キジ	75	43	82	ホオアカ	0	1			
33 クイナ	10	14	83	カシラダカ	10	62			
34 ハン	33	59	84	アオジ	13	68			
35 オオバン	27	59	85	オオジョリソ	10	39			
36 タマシギ	0	1	86	カワラセウ	75	87			
37 コチドリ	19	0	87	マヒワ	0	1			
38 イカルチドリ	2	10	88	ベニマシコ	2	3			
39 ムナグロ	8	0	89	ウソ	0	3			
40 タゲリ	0	13	90	シメ	17	62			
41 キアシシギ	2	0	91	スズメ	100	100			
42 イソギ	2	3	92	コムクドリ	15	0			
43 タシギ	12	23	93	ムクドリ	96	93			
44 コアジサシ	15	0	94	カケス	2	45			
45 キジバト	100	99	95	オナガ	27	52			
46 ヒメアマツバメ	0	1	96	ミヤマガラス	0	3			
47 アマツバメ	2	0	97	ハシボコガラス	100	99			
48 カワセミ	50	49	98	ハシボコガラス	100	100			
49 アリスイ	6	9							
50 アオガラス	2	1							

※ 1994年10月(第1回)から2013年9月までの122回の講座における玉井・田中の記録より

とができております。

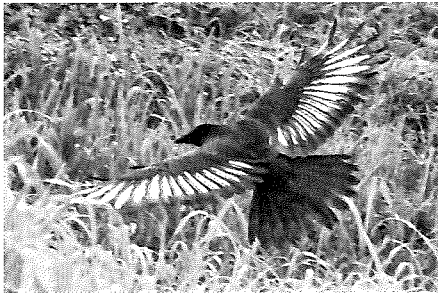
また、初めての受講者には観察用の黒浜沼周辺マップ・簡易野鳥図鑑の他に、入会案内など日本野鳥の会の関係資料も手渡し、啓蒙活動もあわせて行っております。



野鳥情報

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月2日、近頃、ハクセキレイの♂♀が一緒にいるようになった。ジョウビタキ♂がテリトリーを確保した。11月11日、農家の庭の植木の枝先でツミ♂が悠然と羽繕い。ヒヨドリが周囲を騒がしく飛び回っても、我関せず。11月13日、ミヤマガラス200羽士がカラス柱を作って西に流れた。カケスが屋敷林から屋敷林に移って行った。エナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラの混群が桜の木を枝移り。11月15日、亜種オオカワラヒワ12羽の群れが、ケヤキの梢に止まっていた。東沼に近頃カルガモが増えた。本日36羽。11月17日、ツグミ4羽が銀杏の枝先に、今季初認。時に帰るカラスの群れ50羽士が電線にとまった。その中にミヤマガラスが数羽いた。11月18日、オオタカがカラス数羽に追われて、屋敷林に飛び込んだ。柿の木にエナガが4羽。移動した後、コゲラが幹をコツコツ(長嶋宏之)。

鳩山町 ◇11月4日、田んぼで白い羽を持ったハシボソガラス1羽。羽を閉じていると白い羽が見えず普通のカラスですが、飛ぶと写真のように白い羽が見えます=下写真。このようなカラスは初見です(小島 實)。



鳩山町鳩川 ◇コサギ情報です。11月5日、8羽、11月11日、5羽。その後暫く見かけなくなったが、11月29日に6羽見る。11月5日の飛来までは過去にこの川ではコサギをほとんど見たことがなかった。アオサギ、ダイサギはよく見かけます(小島 實)。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇11月13日午前8時～10時、駐車場から土手に上がる所で、上

空を東から西にオオタカが飛翔。ピオトープ内水路でコガモ5羽。水路右岸の斜面草地にアオジ♀1羽。カオグロガビチョウ1羽。ガビチョウ2羽が水浴び。ビンズイ1羽、水際の小枝に止まるカワセミ♂1羽、水面にダイビングし、元の枝に。嘴に小魚をくわえていた。数ヶ所でシメを見る。ワンドのヨシ原でベニマシコ♀1羽。いよいよ冬鳥の季節。観察路ぎわ、落葉した木の枝にアリスイ1羽。当地での自己観察記録は、ピオトープ整備以前の1997年2月23日以来です。ねむの木広場前の高麗川にオオバン4羽(増尾隆)。

加須市加須はなさき公園 ◇11月14日、シメを探していたら、アトリが1羽枝間から飛び出した。ハクセキレイ2羽に追われたチドリが乾田に降りた。翼に薄い白帯があり、足が黄色い。イカルチドリのような。電線にカラスがずらりと並んだ。ハシボソガラスに混じってミヤマガラスが23羽確認できた。他にヒドリガモ、マガモ、コガモ、バンなど。11月20日、青毛掘川でコガモの飛翔が上から見えた。緑の翼鏡が綺麗だった。波のプールにキンクロハジロ♀が1羽。2008年3月8日以来だ。ウグイスが雑木の枝間を横移り。姿をしばし楽しんだ。他にアオジ、ジョウビタキ、セグロセキレイなど。11月26日、林床の芝の上でシメが採餌(今季ここでの初認)。キセキレイが1羽、乾いた田圃で採餌。他にモズ、カワセミ、亜種オオカワラヒワなど(長嶋宏之)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇11月17日、ハクセキレイの増加が目立つ一方でカワウがいなくなった。コガモとヒドリガモの一部はエクリップスの状態が残っているが、マガモ、オナガガモ、ヨシガモは換羽が終了し、繁殖羽になっている。ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、オオバン、キセキレイ、セグロセキレイなど(長嶋宏之)。

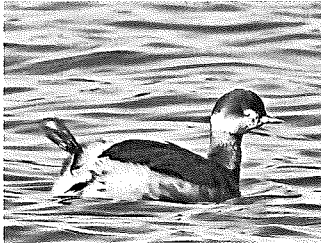
表紙の写真

レンジャク科レンジャク属キレンジャク

2年前の2月、北海道鶴居村で、タンチョウたちに背向け、キレンジャクを見ていました。
徳名 貴房(さいたま市)



行事案内



ハジロカイツブリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。
参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。
持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。
悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月1日(土)

集合：午前 8 時 35 分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前 9 時 15 分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越 7:57 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：菅谷館から蝶の里公園でカラ類、シメ、アオジ、都幾川でクサシギ、イカルチドリ、タヒバリ、ノスリ、オオタカなどを期待します。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月2日(日)

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：須崎、伊藤、赤堀、大井、倉林、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：ここ数年ハクチョウが飛来しています。猛禽類・カモ類も健在。そんな芝川第一調節池周辺をゆっくり歩きます。

ご注意：途中トイレがありません。天候(強風等)によってはコースを変更することがあります。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月2日(日)

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：この時季、冬鳥たちが間近に観察できます。シロハラ、アオジ、カシラダカなど、運が良ければ青いルリビタキも。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月2日(日)

集合：午前 9 時 30 分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:50 発バスで終点下車。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木、藤掛、星、水谷、山本

見どころ：武蔵野の豊かな自然が残る公園で、林や水辺の鳥を探します。カラフルな冬鳥との出会いに期待しましょう。

戸田市・彩湖探鳥会(平日)

期日：2月6日(木)

集合：午前 9 時 10 分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:18 発下笹目行きで、「彩湖道満

グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、赤坂、赤堀、石塚、大井、倉林、新部、野口(修)、松村

見どころ：このひと月で鳥たちの世界はどれだけ変わったかな？ カモのペアは増えたかな？ 1月の記録と比べてみましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井、鶴飼、倉崎、田島、千鳥、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：厳寒の候、如月(着さら着)。鳥たちも羽毛をふくらませて寒さに耐えている？ 野鳥の森をそっと覗いてみます。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月9日(日)

集合：午前9時30分、西武線 西武球場前 駅前。
担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木、長谷部、水谷、持丸

見どころ：再開して丸10年、節目の回。記念品は出ませんが、記念の鳥の出現に期待。カイツブリ類の夏羽が見られるでしょう。

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月9日(日)

集合：午前9時30分、信越本線横川駅前。(昨年より早い時間です)

交通：JR 高崎線大宮 7:07 発→高崎 8:29 着、JR 信越本線高崎 8:41 発→横川 9:14 着。

解散：午後3時30分ころ、横川駅前。

担当：入山、玉井、浅見、星、藤澤、野口(修)

見どころ：横川駅から小根山森林公園まで歩きます。昨年は、ミヤマホオジロが出て大騒ぎ！ さて今年は何が出るか？

ご注意：昼食持参(森林公園まで釜飯の出前あり。注文は集合時に)。健脚向き(往復約7km。一部急坂の登り下りあり)。積雪の可能性あります。防寒・防水・滑らな

い靴でお越しく下さい。杖があれば歩くのに便利です。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(火・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。

担当：青木、浅見、小林(み)、赤坂、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、田中、松村、藤原、山田

見どころ：見沼たんぼの探鳥会では、一番北側の場所。ミヤマガラスやクイナに期待。たんぼを渡る風は寒い。暖かい格好で。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月15日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由) 7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、柴田、立岩、永野、野口(由)、山野

見どころ：昨年はヒメアマツバメ出現！今年も珍しいのが出るかな？ カワセミ、ジョウビタキなどは期待できるでしょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月15日(土)

集合：午前9時20分、森林公園南入口前
交通：東武東上線・森林公園駅北口から立正大学行きバス 9:02 発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過して下さい。

費用：参加費以外に入園料400円(子供80円)、65歳以上200円(要年齢を証明できるもの)。

担当：中村(豊)、岡安、佐久間、杉原、鈴木、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：早春の雑木林を歩きます。昨年はオオマシコ、ルリビタキ、ミヤマホオジロ。梅も咲き出し、アフターは花見も。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月15日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ(ご注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見、青木、赤堀、楠見、倉林、小菅、小林(み)、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：寒さの中にも、なんとなく季節の変化が感じられる候。鳥達も色付き始めたかな。見沼たんぼで春を探しましょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月16日(日)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、小池、田島、千鳥

見どころ：ここではヨシガモは普通種。カワアイサは5年間連続。ベニマシコ、オオジュリンや猛禽たちにも期待しましょう。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます、足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月16日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、荒木、神場、佐久間、志村、杉原、鈴木、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、山口

見どころ：柳瀬川の冬鳥は勢ぞろいしたでしょうか。集合地から新河岸川合流点付近まで探鳥し、そこで解散します。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月23日(日)

集合：午前8時35分、岩槻駅前。または、午前9時、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発で岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：長野、石川、内田、榎本(建)、菊川、小林(善)、玉井、長嶋、野村(弘)、藤原、吉安

見どころ：冬鳥たちは北への旅立ち準備開始。何となくソワソワしているようにも感じられる姿を、じっくりと観察しましょう。歩きやすいコースです。初心者も大歓迎。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月23日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越え右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス鳩山ニュータウン行き8:46、9:00発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：千鳥、岡安、志村、中村(豊)、藤掛、増尾、松下

見どころ：市民の森でカラ類、ビンズイ、谷津でベニマシコ、カシラダカ、岩殿観音ではルリビタキ、ミソサザイに期待です。

行田市・利根大堰探鳥会

期日：2月23日(日)

集合：午前8時10分、秩父鉄道行田市駅南口。または午前9時、行田市 見沼元坎(みぬまもといり)公園駐車場。

交通：秩父鉄道羽生7:42発熊谷行き、または秩父鉄道熊谷7:54発羽生行きで、行田市駅下車。行田市駅8:19発行田市市内循環バス北東循環コース(右回り)に乗車し8:49着「老人福祉センター」で下車。見沼元坎公園駐車場まで徒歩1分。

解散：午前11時30分ころ、見沼元坎公園駐車場。

担当：入山、内藤、村上、茂木、吉原(俊)

見どころ：カモの仲間を中心に水辺の鳥達を観察します。風が吹いたら逃げる所がありません。防寒対策をしてきてください。

ご注意：秩父鉄道ではスイカ・パスモが使えません。バス代は、片道100円。帰りは老人福祉センター11:51発、または15:26発、市内循環バス北西循環コース(右回り)で。



行事報告

5月25～26日(土～日) 長野県 戸隠高原

参加：30名 天気：晴

キジ オシドリ カルガモ カイツブリ キジバト ホトトギス ツツドリ カッコウ ハチクマトビ ノスリ コゲラ オオアカゲラ アカゲラ アオゲラ サンショウクイ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ メジロ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ ムクドリ マミジロ クロツグミ アカハラ コルリ コサメビタキ キビタキ ニュウナイスズメ スズメ キセキレイ カワラヒワ イカルホオジロ ノジコ アオジ クロジ (53種) 先ず鏡池へ向かう。植物園の入り口でアオジがお出迎え。英名通りの黒い顔。すぐ後で見られたノジコとの違いを皆で学習。キビタキ、アカゲラなどの常連を見ながら鏡池まで行き、昼食。オシドリ夫婦が出迎えてくれた。隋神門付近で、久しぶりのマミジロに出会えた。オオアカゲラはいつものように営巢中。翌朝は、前日見られなかったクロツグミ、コルリ、クロジを小川の小道沿いに探す。残念ながらコルリは声のみであったが、他の2種は見る事ができた。この朝巢立ったというオオアカゲラの雛は、稍でじっとしていた。天気にも恵まれ、充実した探鳥会となった。(菱沼一充)

10月6日(日) 北本市 石戸宿

参加：43名 天気：曇

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト アオサギ バン カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ コサメビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ ホオジロ (24種) (番外：ドバト) 公園正門の橋の上から右側の池にコガモを確認。木道では、ワタラセツリフネソウ、ミゾソバの花が一面に咲いていた。「かわせみの池」にもコ

ガモ。カワセミも飛んで来てじっくり観察できた。公園の北の端には、キツリフネの花。ヒガンバナは盛りを過ぎていた。後方の方は、帰りのエドヒガン前でコサメビタキを見られた。まだアブラゼミの声も有ったが、モズの高鳴きと姿をあちこちで確認。暑かった夏もいつの間にか確実に秋になっていることをしみじみと感じた。(吉原俊雄)

10月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：60名 天気：快晴

カルガモ キジバト アマツバメ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ メジロ ノビタキ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (19種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 10月だというのに真夏日が続いていたが、打って変わってさわやかな秋晴れとなった。絶好の探鳥会日和とあって張り切ったものの、思いのほか鳥が少ない。しかし、鳥の出の良し悪しに一喜一憂することなく、その場所の四季折々の表情を見て楽しむのも、定例探鳥会の持つ醍醐味ではないか。(榎本秀和)

10月19日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：51名 天気：曇

キジ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン ツツドリ アマツバメ アオアシシギ トビ チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ オオジュリン (48種) (番外：ドバト) 前年同様、早々にツツドリが出迎えてくれた。カモ達も増え、カイツブリ 3種も含めて谷中湖は賑やかになってきた。いつものハヤブサが上空を駆け抜け、チュウヒも舞ってくれた。一方、オオジュリンやベニマシコなどの冬の小鳥はまだ少なく、これからの期待。ツバメ 2種も残っていて、予想外に多くの鳥が観察できた。(佐野和宏)

10月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆

10月20日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(青木正俊)

10月20日(日) 川越市 西川越

雨のため中止。(佐久間博文)

10月26~27日(土~日) 長野県 戸隠高原

台風のため中止。(菱沼一充)

10月27日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 46名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ オオタカ ノスリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外: ドバト) 冬鳥の到着が遅い上に、前日の台風の影響で風が強く鳥影が少ない。それでもシジュウカラ、ホオジロ、モズ、コゲラ等が飛び回る。例年ならジョウビタキが縄張り宣言をしているが今年は見つからない。いつものコースを外れて旧忍川に向かう。住宅地を抜け田園に出ると上空にオオタカ、ノスリが舞い、タヒバリ、セキレイも現れた。旧忍川ではダイサギ、アオサギ、ゴイサギ幼鳥、カイツブリを観察。遠くにカルガモの群れが飛ぶが期待した他の水鳥類は現れなかった。(相原修一)

11月2日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 29名 天気: 曇

マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ コサギ ハイタカ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (28種) 珍しく広場でハイタカが見られた。グラウンドを横切って荒川の土手に上がる。枝にアオジがいたのでホッとす

る。河川敷は草が茂ってタヒバリなどを探せる状況ではなかったので、公園に戻り水路に沿った藪を北に進む。カワセミが2羽が水路の杭や側板にとまってにらめっこ、さらに進むとキセキレイやジョウビタキが出たので大満足。(大坂幸男)

11月10日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 22名 天気: 曇

カルガモ キジバト カワウ アオサギ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ アオジ (23種) ①セキレイ類4種が出てくれたこと……今回のハイライト、②ジョウビタキを間近に見られたこと、③ツグミが上空を旋回してくれたこと、でまずまずの結果となった(昨年同期は29種)。シメやシロハラ等はまだ飛来していないものの、ようやく冬鳥の季節が到来し始めたとの感を強くした。(石川敏男)

11月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 22名 天気: 曇

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオパン オオタカ ノスリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (32種) (番外: ガビチョウ) 土手に上がるとシメが待っていてくれた。今季初見の参加者も多く、盛り上がった。ゴルフ場の裏手に回るとカシラダカ、アオジ、ツグミと冬鳥がぼつぼつ登場。お目当てのミヤマホオジロは見られなかったが、ジョウビタキ、ベニマシコも出てくれてこの時季の探鳥会らしくなった。鳥合わせ前に念のため河原に出てみると、梢にオオタカ若鳥が2羽止まって、最後を飾ってくれた。(新井 巖)

11月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫



●メジロのさえずり調査協力依頼

NPO 法人バードリサーチとひょうご、大阪支部の鳥学講座ゲスト、大阪市立大学堀江明香さんが共同で実施するメジロのさえずり調査への協力依頼が、本部自然保護室から届きました。

メジロの繁殖生態は思いのほか調べられておらず、身近な割に謎が多いとされています。どうやら地域ごとに子育て戦略が違うようで、日本は南北に長いと、繁殖期もだいぶ違うと考えられています。そこで、主に繁殖期に聞かれるさえずりをチェックすることで、大体の繁殖時期を明らかにするため、初めてさえずりが聞かれた日と、その日から繁殖が終了する8月くらいまで、お昼の時間にメジロがさえずっていたかどうかチェックする調査を、月に数回の頻度で行うというものです。

詳しくは、「バードリサーチ メジロとランチプロジェクト」で検索してください。

●普及活動いろいろ(敬称略)

12月17日(火)、都内板橋区で開催された新ハイキングクラブ主催の室内行事で、小林みどりが約2時間、「野鳥を楽しむ山歩き」について話をしました。

12月19日(木) 午前から午後にわたり、上尾市丸山公園内にある上尾自然学習館の自然学習協力員3名の方々に対し、野鳥観察についての講義と実習指導を、小林みどりが実施しました。

12月21日(土)、坂戸市環境学館いずみの講座「バードウォッチングウォーキング」が、高麗川沿いから入西(につさい)こはる

が池の往復コースで実施され、増尾隆、坂口稔が指導。参加者27名、観察鳥24種でした。

●会員数は

1月6日現在1,833人。

活動と予定

●11-12月の活動

11月20日(水) 見沼たんぼさいたま市・市民ネットワークの第3回運営会議に出席(藤掛保司)。

12月14日(土) 『しらこぼと』1月号校正(海老原美夫、長谷部謙二、藤掛保司、長嶋宏之)。

12月15日(日) 役員会(司会:青木正俊、各部の報告・見沼たんぼネットワーク行事との調整・緑区環境講演会後援要請・その他)。

12月24日(火) 『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』1月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

●2月の予定

2月1日(土) 研究部・編集部・普及部会。

2月8日(土) 3月号校正(午後4時から)。

2月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

2月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

毎年、2月号の編集作業は年末年始である。作業が一段落つく頃は、「今年もたくさんの方々から協力をいただきながら、何とかやっていけそうだなあ」と勇気が湧いてくる。(山部)

来年1月の第1土曜は3日! さすが正月3日に編集部会は無理だろうな、どうしようか。(心配症爺)

しらこぼと 2014年2月号(第358号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社